

2003 . 4

白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>
白石区民公式サイト「shiroishi.org」
<http://www.shiroishi.org/>

五十年。水谷さんの傍らにはいつも相棒がいた。「バイオリンと始終一緒ではない生活に慣れるのに丸々二年掛かったよ」と苦笑する。三年前、札幌交響楽団を定年退職。それまで苦楽を共にしたバイオリンは、五台になる。退職時の愛器、一六七九年製の名匠マリアーニ作の逸品は今でも彼の一番のお気に入りだ。

昭和十五年、樺太生れ。十歳でバイオリンを習い始めた。昭和三十四年に北海道学芸大学（現教育大学）に進学。卒業後はNHK札幌放送管弦楽団の準団員になり、バイオリンリストとして腕を磨いた。当時流行したラジオののど自慢の演奏もしたが、「やっばりクラシックの公演に出演するのが一番大切なことだった。いずれは東京で。そう考えていたから。それはかなわなかったけれどね」と話す。

札幌交響楽団に入団したのは、昭和四十二年。さまざまなたなステージでの活躍を認められてのスカウトだった。以来三十三年にわたり、同楽団のバイオリニストとして活躍、三千を超える公演に出演した。その技術と人柄で、十年以上もコンサートマスターを務めるなど指揮者や同僚の信頼も厚い、生粋の「オーケストラマン」だ。だが、「退団後、後輩にもっと伝えるべきことがあったのではと考えるんだ」と水谷さんは話す。親交の厚



今月の

人

元札幌交響楽団バイオリニスト

みずたに まさし
水谷 正志さん (六三)

(本郷通在住)

オーケストラが好きなんです。指揮者や演奏者、スタッフ。みんなまで奏でる音楽がね。

「お水。俺たちのような楽隊屋が少なくなつたなあ」と。「楽隊屋」は、どんな音楽でもこなすプロ魂を持ったオーケストラマンを指す。古武士のような名指揮者の、次代の音楽家へのかすかな憂いと警鐘であつたのだろうか。水谷さんは、この言葉の重さを時折思ふ。

今、水谷さんは自らバイオリンやピアノの製作に挑んでいる。「素人の域を出ないよ」と謙そんするが、その作品にはクラシック音楽への深い愛情と「オーケストラマン」としての誇りが静かににじむ。

■編集 白石区役所総務企画課広聴係
☎003-8612
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1
☎861-2400 内線224
FAX860-5236